

2024 年度 卒業生の進路先からの意見聴取結果

1. 実施概要

卒業生の進路先である食品商社 A に対して、本学から提出したディプロマ・ポリシー等の資料に基づき、本学の取り組み（主に学生の学習成果に係るもの）についての意見聴取を行った。

2. 意見聴取先

食品商社 A 採用ご担当者様

3. 実施日時・場所

2024 年 8 月 6 日（火）14：30～15：40 食品商社 A 本社

4. 本学の取り組みに対する意見

- ・ディプロマ・ポリシーに定める力のうち、DP1にある「新しい時代を生きる職業人として必要な思考力と課題解決能力」は、マニュアル化を求める若者が増えている現代において、問題に対して自分で考え行動するために重要だと感じる。また、DP3にある「社会とつながり、多様な人々と協働できる人間力」も社会で必要な力であり、ディプロマ・ポリシーとして定めていることは評価できる。
- ・同社で働く卒業生は、素直かつ自分で考えて行動できる社員が多い印象がある。
- ・在学中に英語等の語学を身につけることは重要であるが、社会に出てからのことを考えるとグローバルな視点と多様な価値観を醸成していくことの方がより必要であると感じる。
- ・ディプロマ・ポリシーに定める力を総合的に培うことが期待できる卒業研究（卒業論文作成）は、大学における学びの集大成といえる科目であるが、必修科目として取り組ませるのではなく、自ら選択して主体的に取り組むことができる形が理想的ではないか。
- ・同社は採用選考の中で、適性検査を実施していないため、成績証明書以外の客観的な指標としてアセスメントテスト等の結果を大学側から公開してもらえたらありがたい。しかしながら、面接結果とアセスメントテスト等の結果に乖離がある場合の判断は難しい。
- ・専門的な知識を身に付けられるようにカリキュラムを改善していくことはもちろん重要であるが、クラブ活動やアルバイト等を含めた大学生活全体が学生にとって多様な学びになると考える。
- ・リカレント教育を受けたいというニーズはあるが、時間と費用がネックになっているのが現状である。また、採用担当者としても科目の聴講よりは学位や資格取得といった客観的に評価されやすいものの方がその価値を判断しやすく、社会人にとってニーズがあるように感じる。

以上